

カタクチイワシ卵稚仔出現状況 (2010. 6- 1)

香川県水産試験場 藤原 宗弘

TEL: 087-843-6511

調査方法

調査日: 6月2日 (備讃瀬戸は6月1日)

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2定点

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	13点平均値	
2009.6.2	0	0	2	6	0	4	6	1	0	0	0	0	0	0	-	1.7	1.5
2010.6.2	4	72	20	4	60	0	2	0	0	17	21	0	0	1	18.2	14.4	
2011.6.2	0	0	0	0	0	1	0	44	0	25	0	0	0	/	6.4	5.4	

【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

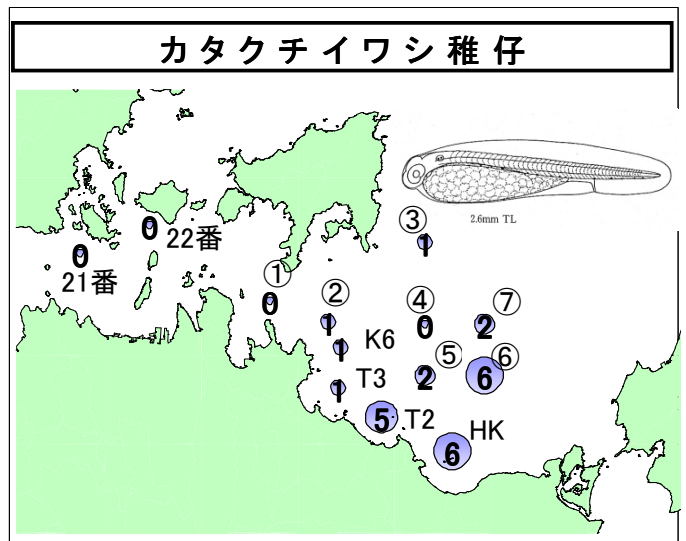
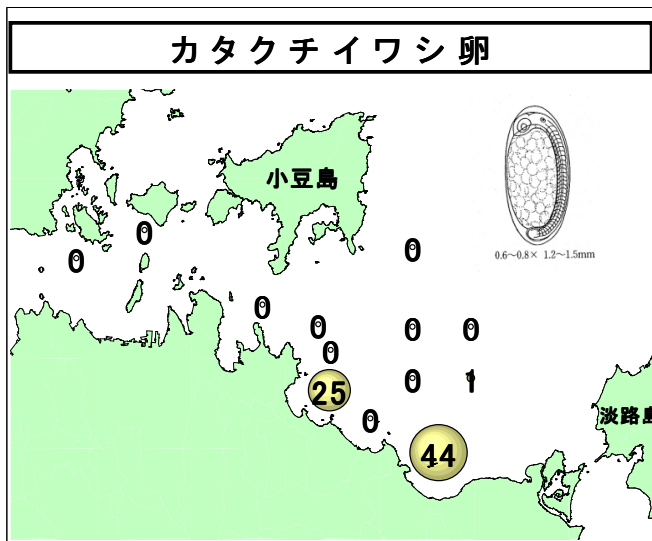
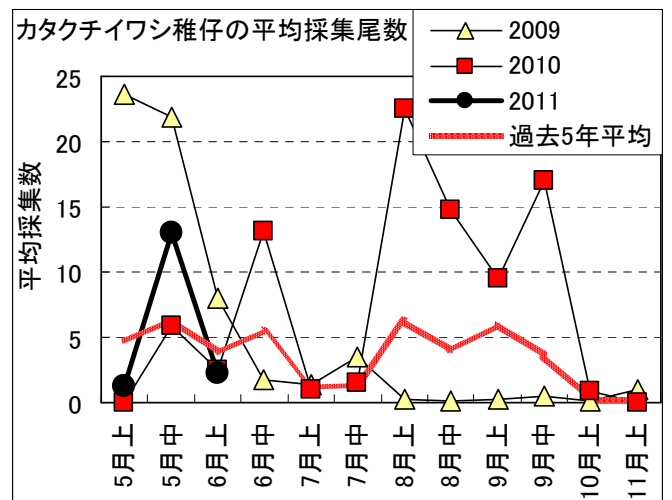
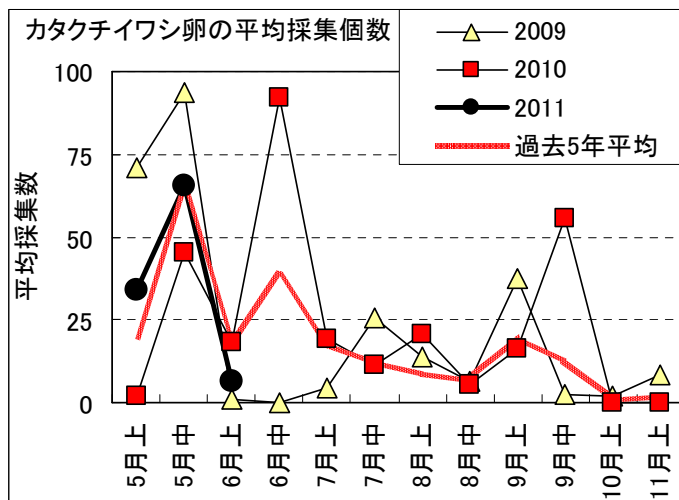
年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	13点平均値
2009.6.2	0	39	19	9	26	23	29	5	3	1	23	0	0	-	16.1	13.6
2010.6.2	1	5	1	1	7	0	4	0	2	2	5	0	0	1	2.5	2.1
2011.6.2	0	1	1	0	2	6	2	6	5	1	1	0	0	/	2.3	1.9

* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸を除く)。

* 13点平均値: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2定点の平均値を表す。

* グラフの値は、播磨灘11定点の平均値を現す。



播磨灘11定点における卵の平均出現数は約6個となり、昨年同時期を下回った。卵は陸寄りで出現数が多かった。

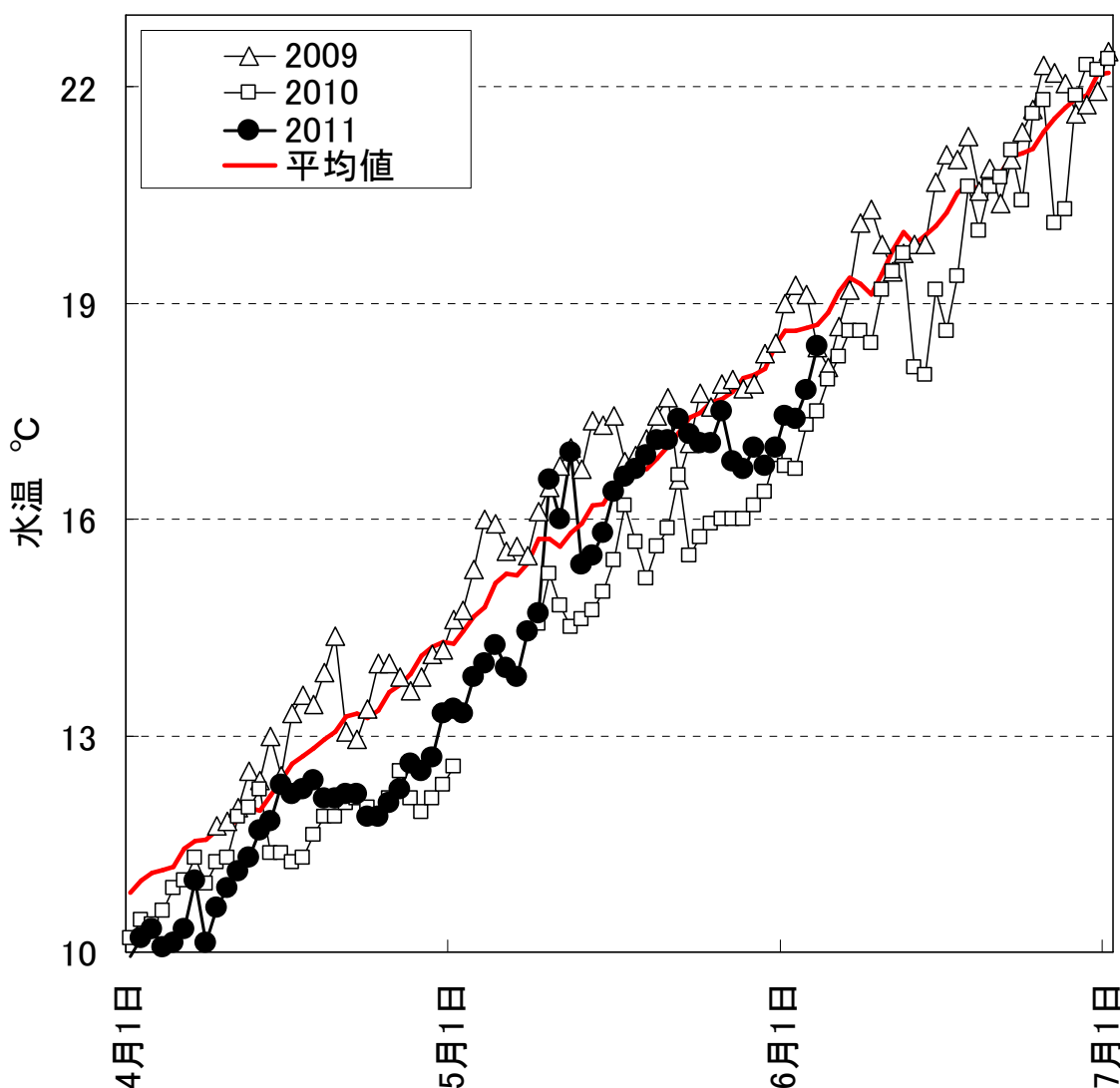
一方、稚仔の出現は約2尾となり、昨年同時期とほぼ同程度であった。稚仔の出現は徳島県寄りで多い傾向を示した。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)データによると、水温は4月中旬以降、平年に比べ低く推移していた。5月中旬頃から横ばいで推移したが、6月に入ってから上昇傾向にある。

今回の調査は台風の出水の影響もありゴミがかなり多く、塩分濃度もやや低い状況であった。ノクチルカ(夜光虫)が全調査点で優占しており、K6では一部着色域もみられた。餌料生物として重要なかいあし類は、前回と同じで少ない傾向であった。

徳島県でのカタクチシラス漁獲量は、今のところ少ない模様です。

【参考】



※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>